

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 上木崎 小学校）

学校番号 013

【様式】

目指す学校像	○豊かな心が育つ明るく楽しい学校 ○学ぶ喜びを味わえる活力ある学校 ○家庭・地域とともに歩む開かれた学校		
重点目標	1 ICTの効果的な活用と話し合い活動による思考力の向上 2 安全・安心して過ごせる教育環境の整備 3 学校・家庭・地域の連携による豊かな教育活動の実施 4 教員の指導力向上と業務改善の徹底		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状（○）と課題（△）	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○学校評価で、「進んで話し合いをする授業を行っている」の質問において、「十分にできている」と回答した児童は51%であった。 △ICTを活用した授業は定着をしてきたが、さらに教育活動の充実を目指すためには、タブレットの効果的な活用を研究する必要がある。 △友達との意見交流など、協働的な学びの在り方に課題がある。	・タブレットを効果的に活用した授業の推進 ・話し合い活動を取り入れたアウトプット型の学習の推進	・前年度の実践例、データを見直し、効果的に活用する。 ・タブレットを活用した授業スタイルを定着させる。 ・全ての教科において、話し合い活動を取り入れ、自分の考えを持ち、表現する機会を設定する。 ・3年計画で「話し合い活動による思考力の向上」の研究に取り組む。	・タブレットを活用した授業が定着し、効果的に活用することができたか。 ・学校評価の質問項目⑧で、児童の肯定的な回答が80%以上になったか。 ・話し合い活動を取り入れた授業スタイルについて、研究を深めることができたか。 ・学校評価の質問項目⑨で、児童の「十分にできている」という回答が60%以上となったか。（R5:51%）	・タブレットの活用では、新しいアプリを導入し、自分の考えを表現したり、友達の考えに触れたりする授業が展開されている。 ・児童へのアンケートでは、80%以上が肯定的な回答をしている。 ・ペア、グループでの話し合い、タブレットを活用した意見交流など、様々な授業スタイルを実践し、研究を深めている。 ・「十分にできている」という回答は45%であったが、肯定的な回答は86%となっている。	A B	・「個別最適な学習」と「協働的な学習」を一体化した学習について、校内研修で継続的に研究し、実践する。 ・「子どもが主語」の教育活動を実践していく。 ・子どもが自分の考えを深めたり、学力を高めたりできる「自立した学習者」の育成に取り組む。 ・アウトプット型の授業を継続し、充実させていく。	・先生方の様々な取り組みは、大変ありがたく感じている。 ・児童のICTの吸収力に圧倒される。 ・ペア、グループ等の話し合い活動が活発になり、自己表現や他者理解に結び付くことに期待している。	
2	○創立73年目を迎え、経年劣化により、傷んでいる施設・設備が多い。 ○市学習状況調査で、「自分にはよいところがあると思う」という質問において、6学年中5学年が市平均を上回っている。 △児童と教職員、利用者の安全を考え、計画的な点検と整備が必要である。 △児童一人ひとりの個別に抱える課題等を教職員が把握し、組織的に支援できる体制づくりが必要である。	・全児童を対象とした発達支援の生徒指導の実践 ・教育環境の計画的な安全管理の徹底	・全教育活動を通して、組織的な児童理解を図り、組織的に支援できる体制を整える。 ・今年度の重点目標「自分で考え、判断し、行動できる子の育成」を推進する。 ・施設、設備の定期安全点検を確実に実施するとともに日常点検を行い、危険個所の早期発見、早期対応を徹底する。	・学校評価の質問④で、児童の肯定的な回答が90%以上となったか。（R5:86%） ・学校評価の質問⑩の教職員の「十分にできている」という回答が40%以上となったか。 ・定期点検を確実に実施することができたか。 ・学校評価の質問項目⑪で保護者の肯定的回答が85%となったか。（R5:82%）	・質問④の結果は昨年同様86%であった。数値は上がっていないが、高水準を保っている。 ・質問⑩の結果は昨年同様25%であった。肯定的な回答は96%であった。 ・定期点検の確実な実施に加え、日常的な点検により、故障や破損への早期発見、早期対応を行うことができた。 ・質問⑪の結果は80%であった。	B A	・児童が安心して自分の考えを表現したり、実行したりできる環境を整えていく。 ・教職員の意識を高めるために研修を実施し、情報提供を行う必要がある。 ・次年度は、複数の工事が行われるため、安全指導を徹底する必要がある。 ・工期や場所等は、決定次第、保護者にも周知を行う。	・工事の計画がたくさんあると聞いている。活動に制限がかかることもあると思うが、できる限りで充実した教育活動を進めてもらいたい。 ・学区の選択地域が広がることで、児童増加に伴い休み時間の校庭利用に制限がかかる可能性も加わり、児童の遊び方について様々な策を講じる必要性を感じている。	
3	○新型コロナウイルス感染症が、昨年5類に移行後、様々な学校・地域行事が行われるようになった。 ○学校運営協議会を3回実施し、重点目標を設定し、学校の教育活動について熟議を行うことができた。 △学校評価の「わからない」という保護者回答が、全20項目合計342票となっている。 △教育活動・行事の見直し、新規事業への取組等が非常に多く、十分周知することができなかった。	・コミュニティ・スクールの一層の充実 ・教育活動の積極的な情報発信	・児童が学校運営協議委員や地域の方々と直接的に関わる機会を多く設定する。 ・学校ホームページをはじめSNS等を有効に活用し、情報を積極的に発信できる体制を整える。	・学校運営協議会に児童が参加することができたか。 ・地域の方を招いた給食の会食を5回以上実施することができたか。 ・学校の情報発信のための新しいシステムを導入することができたか。 ・学校評価の「わからない」という保護者の回答合計が前年比-100票となったか。	・児童が学校運営協議会に参加し、児童会の活動等を紹介することができた。 ・学校運営協議委員会をはじめ、地域の方を招いて5回以上実施した。 ・新しく「スクリレ」を導入することができた。導入にあたり、効果的な情報発信について、再検討を行ったため、導入時期が遅れた。 ・アンケートの結果は-60票であった。目標に大きく届かなかった。	A B	・学校運営協議会を核とし、地域の諸団体、地域の方々との連携を強化し、教育活動の充実を図る。 ・個人情報の管理や情報の整理を検討しながら、情報発信を効果的に行い、家庭や地域と協働し、教育活動の更なる充実を目指す。	・小学校で地域のお祭りについて授業で取り上げたり、同じお祭りについて中学校でも積極的にかかわったりと、ありがたい。小中の連携も行われることに期待できそうで、保護者としては子どもたちの成長を途切れることなく地域や学校に見守られる安心感がある。	
4	○1人1台のタブレット端末を活用した授業が行われ、新たな学びのスタイルが定着をした。 ○教職員の業務改善意識が高まり、各種行事や活動が見直された。 △教職員の業務が多忙を極め、教材研究を行う時間確保が難しい。 △タブレット端末の活用等で個別最適な学習は充実したが、友達と考えを共有し、意見を交流しながら学ぶ協働的な学びについては課題が残っている。	・業務改善の視点から、学校行事や教育活動の見直しを図る。 ・タブレットの有効活用と、話し合い活動に充実による授業力の向上	・全ての学校行事、教育活動の見直しを行い、教育効果を高める。 ・教育活動の充実を図るために、全ての業務を見直し、改善の徹底を図る。 ・「学びの指標」を意識した授業、本校の研究テーマを意識した授業実践と研究により、授業力の向上を実現する。	・運動会や社会科見学等の学校行事や教育活動を見直し、実施することができたか。 ・ペーパーレス化の一層の推進、事務文書の簡略化、会議の簡略化等を進めることができたか。 ・全教員が、児童の「学びの指標」アンケート結果において、1回目よりも2回目が高回り。	・全ての行事、教育活動の企画段階で見直しを実施し、ねらいの明確化、内容の改善が進められ、教育活動の充実が図られた。 ・会議資料等のペーパーレス化や会議等の簡略化を実現することができた。学校全体でも、業務改善の意識が高まっている。 ・アンケートの結果は、評価が上がった教員は半数であった。評価が下がったケースも、大きく下がったものはなかった。	B	・教科担任制や学年内交換授業等を活用し、児童が自ら学ぶ授業スタイルの研究を通して、教員の指導力向上、児童の学力向上を目指す。 ・ICTを活用し、業務改善の一層の推進により、教員が児童と過ごす時間や教材研究を行う時間を確保する。	・先生方の負担の軽減を心から望んでいる。PTAや保護者ボランティアなどを利用して欲しい。ボランティアを動かすことにも先生方の負担がかかるかと思う。ボランティア体制を見直し、保護者や地域がそこに協力できるようになるとよい。	

